第３回 千葉の未来を切り開く「教育立県ちば」を実現する有識者会議 会議録

日時：令和６年５月３１日（金）
午前１０時３０分から正午
場所：県庁中庁舎９階企画管理部会議室

１　開会

２　会議の公開

３　教育長挨拶

４　議題

（１）第４期千葉県教育振興基本計画基本構想骨子案について

【教育政策課長】

教育政策課長の古谷野でございます。よろしくお願いいたします。

私から千葉県教育振興基本計画基本構想骨子案についてご説明いたします。

資料１をご覧ください。３月 25 日の第２回有識者会議では皆様から貴重な御意見をいただきまして改めて感謝申し上げます。今回は頂戴した御意見を受け、第２章、千葉県教育をめぐる現状と課題を、千葉県特有の課題を踏まえ整理し直し、第３章、千葉県の目指す姿の基本理念と基本目標について再検討してまいりましたので、変更した点を中心に、改めてご説明をしたいと思います。

まず第１章ですが、こちらにつきましては前回第２回から特段変更しておりません。

第２章　千葉県教育をめぐる現状と課題「２千葉県教育の課題と取り組むべき視点」をご覧ください。

ここでは第２回会議で委員の皆様からいただきました「踏まえるべき課題」を追加するとともに、この課題から実施計画に反映させるべき事項を「取り組むべき視点」として整理しました。追加修正をした箇所につきましては青字で示してございます。

まず、①人口の地域間格差と少子高齢化ですけれども、千葉県の課題としましては、香取・東総・南房総ゾーンでは人口減少が進み、東葛・湾岸ゾーンでは、人口が急増している地域もあり、地域、学校間における児童生徒数の偏在が課題となっています。

また、県立高校の専門学科の志願者数の低迷も大きな課題の１つですので書き加えました。

「②急速な社会変化への対応」では、令和元年の房総半島台風を例に挙げまして、近年、激甚化・頻発化している自然災害についても触れました。

「③経済雇用情勢の対応」ですが、厚生労働省の調査による、高卒就職者の３年以内の離職率につきましては、令和２年度卒業生の場合ですが、全国平均よりも４ポイント高く、41.2%となっている現状があります。産業界が求める人材と生徒の志向のミスマッチが大きな要因と考えられます。

また、今後取り組むべき視点として、千葉県内にある企業産業と教育の連携、キャリア教育の推進に加え、起業家教育を記載いたしました。

「④多様なニーズに対応した教育」では、学習指導要領総則に記載のある障害のある児童生徒への指導、海外から帰国した児童生徒や外国人の児童生徒の指導、不登校児童生徒への配慮の順に並べまして順序を修正いたしました。

「⑤質の高い教育を行う学校体制の充実」では、教員の多忙化や、長時間労働への対策の視点として、外部人材のさらなる活用、チーム学校の推進などを新たに記載しました。

「⑥学校家庭地域の連携協働」につきましては、第２回会議から大きな追記をしておりません。

次に、第３章、千葉県教育の目指す姿についてです。

前回、基本理念について、千葉県教育のこだわりですとか、千葉の固有の課題などを踏まえ、千葉らしさを込めた方がよいとの御意見をいただきましたので、千葉県の現在の特徴や課題を踏まえ、基本理念を再検討いたしました。

はじめに、「千葉県の特徴」についてです。歴史を遡ると、千葉県は、上総、下総、安房という３つの国があり、江戸時代には、幕府直轄地・藩領・旗本領が複雑に配置されていて、幕末には 17 の藩がありました。それだけ、地域性の違う多様な文化、エリアによって成り立ってきました。

産業についても、農業、水産業、工業いずれも全国屈指であり、さらに、東京圏にありながら、豊かな自然、魅力ある観光地があり、多様なライフスタイル、職業を選択することができ、県外からも、多くの方から、「二地域居住地」として注目されています。

また、世界の玄関口である、成田空港や千葉港を有し、国外からも多くの企業が進出し、グローバル化も進んでいます。歴史、産業、自然、文化など、様々な面で多様性を有しているのが、千葉県の特徴であろうと考えています。

本年１月には、「千葉県多様性が尊重され誰もが活躍できる社会の形成の推進に関する条例」の施行がされたところであり、教育振興基本計画においても、千葉県の特徴である「多様性」に着目しております。

ここで、千葉のポテンシャルと課題についてスライドにまとめましたので御説明させていただきます。

まず、千葉県のポテンシャルです。現在、千葉県では、圏央道や北千葉道路などの整備をすすめております。　道路整備が進展し、首都圏と成田空港の距離が大幅に短縮されることにより、新たな産業拠点の形成と、国内外からの企業進出が期待されます。

また、現在、成田空港の第３滑走路の整備が進んでいるところですが、この成田空港のさらなる機能強化により、2030 年代初頭から 2040 年代後半には、発着回数が年間 50 万回に達すると予測され、人や物の往来が今よりさらに増え、雇用についても空港内外で約６万４千人が新たに必要になると見込まれています。

続いて、県内人口ですが、日本のほとんどの自治体で人口減少が進む中、本県も同様の傾向となっていますが、人口の社会動態について注目すると、本県では、平成 25 年から増加に転じ、令和５年では、0.58％の増となっています。

これは、千葉県が都心に近く、温暖な気候や海に囲まれた自然豊かで、子育てに適した環境を有し、移住先としても人気があるといった背景があると考えます。

このように、将来も発展が期待されるポテンシャルを有する千葉県には、毎年、国内外から、様々なアイデンティティを持つ子供たちが増えています。一人一人の多様性を尊重し、誰もが自分らしく活躍できるよう、しっかりと教育環境を整備していく必要があります。

一方、第２回有識者会議でも、県内企業の働き手の不足について御意見がありました。いくつかデータをお示しできればと思います。

まず、若者の県外流出に関するデータです。2012 年以降、千葉県から東京 23 区に、毎年、約４万人が転出していますが、その約半数を 20 代の若者が占めており、かつ、年々増加傾向にあります。これは、

高校卒業後、東京の大学に入学する影響もありますが、千葉県で育った多くの子供たちが、卒業後、東京で就職してしまうという現実があると考えられ、千葉県の様々な産業の人材確保に影響を与えています。今後、多くの担い手を必要とする本県にとって、重要な課題と言えます。

次の資料は、県内の職業系専門学科の高校の志願倍率の令和４年度から６年度までの３年間の平均ですが、職業系専門学科は７割以上で定員割れが起きてしまっています。

また、人手不足に関する意識調査からは、約半数の企業で従業員の不足感があるという結果であり、深刻さが加速しています。今後、多くの担い手を必要とする本県にとって、重要な課題となっています。

担い手不足は、農林水産業をはじめ、バスやタクシーの運転手、看護師の不足、さらには、教員不足など多くの分野でおこっており、今後 10 年先を見据え、地域・産業界・学校が連携し、将来の千葉県を担っていく若者を育てていく必要があります。

これら本県の特徴や、ポテンシャル・課題を踏まえ、10 年後の本県教育の目指す姿とこれを実現するための目標について、再検討をしました。

前回までの会議でご説明したとおり、本県を取り巻く教育環境は、教員不足、不登校・外国にルーツのある児童生徒への対応など、多くの課題に直面しています。このような課題に対応し、教育の土台となる環境づくりにしっかりと取り組み、また、一人一人の多様性を尊重し、障害のある人、外国人など、異なる視点や経験を持つ人々が協働することで、子供たちが自信をもって、自身の持つ個性や可能性を伸ばすことができる教育を推進し、今後も発展を続ける千葉県の未来を担う子供たちを育てていくという思いを込め、基本理念を「一人一人が持っている能力を最大限に発揮し、誰もが自分らしく活躍できる教育を目指して」とし、サブタイトルを「人生をしなやかに切り拓く、千葉の未来を担う人づくり」としました。

続いて、基本目標・目指す姿ですが、３つの基本目標はそのままに、目指す姿については第２回会議で御意見をいただいた事項を青字で記載しました。また【多様性・ウェルビーイング】、【教育デジタルトランスフォーメーション】、【産業界と教育の連携による人材育成】を「施策横断的な視点」として、３つの基本目標を貫く横軸として示し、関連する目指す姿を記載しました。

「２　基本目標・目指す姿」でも委員の皆様から頂いた御意見は青字で追加しておりますので、掻い摘んでご説明いたします。

基本目標「未来を切り拓く人の育成」では、「多様性・ウェルビーイング」の欄に、変化の激しい社会において、「自ら社会における課題を見つけ出す力」の育成が重要と考え、追記しました。

「教育ＤＸ」の欄には、今後、数十万人単位でデジタル人材の不足が懸念されており、「未来のデジタル社会に対応できる人材の育成」。また、ますますデジタルを活用した学習が進展していく中、「デジタルを活用した個別最適な学び」と、一人では達成できない学校ならではの「協働的な学びの充実」について記載しました。

「産業界との連携」では、「理工系人材の育成や各分野での女性活躍の推進」「地域で必要となる人材を地域で育成し輩出できる環境整備」について記載しました。

基本目標「子供たちの自信を育む教育の土台づくり」では、「多様性・ウェルビーイング」の欄に、子供の意欲を高めるため、「教職員が心身ともに健康で、やりがいを持てる」教育環境の整備を記載しました。

また、様々なバックボーンを抱えた子供たち、いろいろな理由で学校に通えない子供も多くいます。全

ての子供たちが、その違いや個性を認め合い、一人一人がその能力や可能性を最大限に発揮できる教育の実現について記載しました。

基本目標「地域全体で子供を育てる体制とすべての人が活躍できる環境づくり」については、前回と変わっておりません。

最後に実施計画編のイメージについてご説明いたします。第４章は、先にも触れましたが施策横断的な視点を記載してございます。そして、第５章は、基本目標と目指す姿を実現させるための施策と主な取組が記載されます。現時点ではイメージですので、現行第３期計画から文言等を抜粋した仮置き状態ですが、本日の会議を経て基本構想編が固まり次第、「第２章の２　千葉県教育の課題と取り組むべき視点」を踏まえ、教育庁各課、知事部局とも連携を図りながら、具体的な取組を検討し、記載していく予定です。

最後に第６章には、委員の皆様からも御意見をいただきました予算面については、教育投資の充実というような形での記載を検討しており、今後庁内で記載内容について協議を進めていくことになります。

私からの説明は以上となります。

【小宮山委員】

ありがとうございました。前回、委員の先生方から、いただいた意見が反映されていると思います。

先ほど事務局説明にもありましたが、今回第１回会議の我々の意見を踏まえて、この資料が見直されております。各委員の先生方からは、意見が反映されているか、また過不足がないかなど、ご覧いただきたい。また、今回イメージとして提示されておりますが、実施計画編についても意見を１人３分から４分ぐらいでいただければと思っております。

【芦澤委員】

私も含めて他の委員の方々からの御提案は方針の中には含まれていて、全体としては好意的に受けとめました。特に修正や追記の必要はございませんでした。

私は産業界の人間ですので、未来の千葉県を担うべき子供たちが、できれば、東京に流出することなく、県内で活躍してもらいたい、就職をしてもらいたいと思っています。

若干気になったところとしては、高校卒業して就職をした、その企業での定着率が全国平均よりも、低いという説明で離職率が 42%ということだったと思います。大学進学する学生は別として、高校卒業してから、早期に経済活動に参加して、自分たちの生活、また県内の経済を豊かにしていくべき方々が、入社して２～３年でその仕事と合わなくなってしまっている。この現実は、学校での教育そのものが必ずしも一致しないかもしれませんが、高校を卒業する段階での進路指導、或いは実際の就職活動の仕方について、改善の余地があると思います。具体的に手立てについては今日のところは省略いたします。そこについても、今までのやり方を見直すという意味では加えていただいたらいいと感じました。

それともう１点は、関連しますが、職業系の専門学科に対する、志願倍率が定員割れしている。情報・看護だけは、人気が高いようですが、工業・商業・農林水産業、そのようなところへの志願倍率が低いということは大変残念だと思います。

私の関わったことのある高校から聞いた話ですと、生徒一人に対して確か 20 倍ぐらいの求人票が企業から寄せられている。生徒さんにとって、より取り見取りの状態。産業界からの期待がある。学校との市場とのギャップが大きいことについては、何らかの改善を加えていただきたいと思います。

【池田委員】

私が前回申し上げた点を取り入れていただきまして、ありがとうございます。とても良い骨子案になったと思っています。さらに良いものとするために細かな点ですが、２点コメントいたします。

まず１点目、第３章２の子供たちの自信を育む教育の土台づくりに関しまして、特別免許や特別非常勤講師制度の活用を促進して、学校以外での勤務経験のあるすぐれた外部人材を、教員として受入れることも重要と考えます。例えば、企業等で活躍した人材も含めて。２つ目の「魅力あるすぐれた資質を有する教員の採用」の前に、「外部人材活用含め」といったことを追記してはどうかという提案をいたします。

続いて２点目、第３章２の未来を切り拓く人の育成、人材育成、産業界との連携に関して、探求・STEAM教育が推進され、理工系分野の人材、女性の活躍推進が図られているといった記載には期待している。

その上で、探求・STEAM教育を通じて、理工系人材を超えて、イノベーション起こせる人材を育成するといったことも追記できるとよいのではないかと考えます。私からは以上でございます。

【小宮山委員】

外部人材の登用や文理の統合も非常に重要なポイントだと思いました。

【岩本委員】

前回の会議から、非常に良い形で反映していただいていると思います。３点ほど申し上げます。

１点目は、理念や目標に関してですが、千葉らしさや課題感は入ってきたと思います。しかし、先ほどの説明を聞きながら、千葉らしい立地や、地の利を考えたときに、記述が弱いかと思いました。どういう意味かというと、千葉県は地方らしさというか、自然豊かな場所にもすぐ行けますし、一方で都市部もあるし、そして成田という世界の玄関口を持っている。このように考えると、千葉県は地方・都市・世界に子供たちが関わりやすい環境が日本のどこよりも整っていると思っています。

「人の育成」のところでも「活躍」とは書かれているが、この地の利を生かした「地域・都市、そして世界」を跨いだり、越境したりしながら学んでいき、将来そういう形で活躍できる千葉の人づくりのような要素が入ってくるのではないか。

どこでも活躍できることは、すごく素晴らしいことですし、他の県でもいいそうなことがやっぱりちょっとどうしてもその力とか、活躍する姿のところには、あまり千葉らしさが反映されてなかったので、もう一捻り地の利を生かした文言が書けるのではないか。そうすれば東京まで出ていかなくても、千葉だって都会や世界と繋がりながら、豊かな暮らしが実現できるという、「千葉の誇り」を基本理念や基本目標のあたりに打ち出しても良いのではないかと思いました。

２点目は、「産業界と連携」が特色だと思って見させてもらいました。他県でもここまではっきり書いているところは多くないです。職業系専門学科の方向性というのは「連携」が最もわかりやすいところだと思います。国のマイスターハイスクールみたいな発想がもう少し入ってきてもいいのではないか。具体的には産業界からの人材を、特別免許状でもいいのでどんどん入れていく。産学をコーディネートするマイスターＣＥＯのような人材を産業界から高校に入れるとともに、カリキュラムや学科自体をこれからの産業界に合う形にアップデートしていく。

今までの産業ではなく、これからの産業とちゃんと紐づく学科やカリキュラムに切り換えていく。これを産業界とともにやっていく。先端的にやっぱ取り組んでいくということが、千葉県における産業界と

教育の連携を牽引していく部分としても重要なのではないかと思いました。

最後３点目です。魅力ある学校づくりに関して、特に郡部の話が出ました。魅力ある学校づくり、チーム学校、もしくは学校と地域の連携協働といったときに、コーディネーターの配置が、非常に重要だということが事例で見えてきています。県立高校であっても配置しながら進めていくことも必要。

千葉は社会増ということで教育移住のような形で、県立学校でも全国から学びに来る流れもあると思います。その時の課題でやはり受け入れ環境で寄宿舎等がないという問題があがる。全国では、市町村が受け入れ環境を整備していく傾向があります。廃校をリノベーションしていくとか、企業の社員寮みたいなところを変えていくとか、様々な形で生徒たちの受け入れ環境を整えていく。県立高校といえども市町村が人口対策とか地方創生の視点を持って、県と市町村が協働して、受け入れ環境、コーディネーター配置も多くのところは市町村が県立高校に配置をしている実情です。そのようなところを市町村とも連携協働しながら、やっていくというのは県立学校にとっても重要なことだと思います。

【小宮山委員】

理念等、記述がまだ弱いのではないかという御意見でした。

産学連携、郡部の学校への言及、県と市町村の連携など、様々なアイデアを出していただきましたが今後、実現に向け、かなり考えていかなくてはならないと感じました。

【小山委員】

前回会議を踏まえて資料に反映していただき、ありがとうございます。

１点目ですけれども、第２章の千葉県の教育をめぐる現状と課題。これは前回の会議内容が非常に反映されていると思います。しかし、第３章の基本目標、目指す姿では、第２章で書かれていた内容が必ずしもすべて含まれていない気がしました。例えば、基本目標目指す姿の真ん中にある子供の自信を育む教育の土台づくりのところに、「教職員が心身ともに健康」とありますが、これが第２章では長時間労働などの業務改善と書かれているので、第２章に書かれていることをもう少し含めていただければいいと思います。

あとは、同じく第２章にＡＩ・データの利活用とあるのですが、第３章の基本目標に「ＡＩ」が消えてしまっている。例えばこれは、第２章基本目標目指す姿の一番左側、未来を切り開く人の育成の教育ＤＸのところに入ると思いますが、「デジタルリテラシーやＡＩ・プログラミング等のスキル…」という記述にはなるかと思います。

第３章の基本目標を目指す姿の一番右側、「地域全体で子供を育てる体制」の多様性・ウェルビーイングのところでも、部活動地域移行や外部人材の活用などは入ってもいいかと思います。

２点目ですが、教育ＤＸに関して、よくわかっていないのですが、教育ＤＸの項目は、第３章に基本目標、目指す姿の多様性・ウェルビーイング、教育ＤＸ、産業界と連携の中に置いてありますが、それは真ん中の子供たちの自信を育む教育の土台づくりは、教育ＤＸに関して再掲となっているのが１つ含まれています。「子供たちが安全安心に学び、学校生活を送ることができる環境が整っている」は教育ＤＸに入るのでしょうか。例えば、教育の土台づくり、ＡＩやデジタルの活用による教職員の働く環境の改善や業務負担改善が入ってくると思う。ここが再掲となっているから、特に気になります。

文部科学省の資料を見ましたが、ウェルビーイングが大きなテーマで、さらにその中にも教職員のウェ

ルビーイングを挙げられているようですので、その辺をもう少し入れていただいて、教職員の働き方改革に関することを第３章、第５章に入れていただいたらいいと思います。例えば教職員のワークライフバランスを実現して生き生きと働ける環境づくりの推進等の文言が第５章あたりに書かれてくると、教員養成学部に関わっている者として有難いと感じました。

【小宮山委員】
一貫性を含めて、どのような形で入れ込んで、反映させるのか、技術的な問題もあると思います。事務局でご検討願います。

【國見委員】
前回の意見が大変多く盛り込まれていると思います。ありがとうございます。
ちょっとショックだったのは、20 代の若者が４万人以上都内に流れていくと、先ほど伺いましたが、逆に千葉県に入ってくる人もいっぱいいると思うので、そういう人たちが、住みやすい、過ごしやすい、働きやすいという環境を作っていけたらいいと感じました。
あとは、職業系の専門学科が定員割れしている話を伺いましたけれども、こちらも多分情報不足だと思います。「こういう職業があって、こういう人たちがこういうことをやっている」ということを知らない生徒が多いと感じます。大変もったいないことだと思います。今こんなに人手不足、担い手不足と言われている中で、職業系の専門学科という良い環境があるのに、そういう場所を知らないということが大変もったいないと思います。例えば、小学校のうちからいろんな企業に触れたり、いろんな職業の人たちに話を聞いたりすれば、いろいろなことに興味を持ってもらえるのではないかと感じました。
続いて、「千葉らしさ」というのは、どの県でも、その県らしさを表現していくことは難しいことだと思います。千葉にしかないものといえば、成田空港ぐらいなのでしょうか。そこを活かすというのは難しいことかもしれません。
最後に、よりよく暮らしていったり、働いたりしていくためにはどうしたら良いのかを、教育の中で大きなビジョンとして考えていくことが大切なことだと考えます。

【小宮山委員】
千葉の未来に向けての人材育成や産学連携でのマッチングをどのように進めていくかについて、後ほど議論させていただければと思います。

【中川委員】
前回は欠席しまして申し訳ありませんでした。
資料は良いバランスでまとめられていると感じました。私から２点申し上げたいと思います。
１つ目は、第３章の教育ＤＸが、横軸で貫かれている点は、とても良いと感じています。どの項目、どのテーマであろうが、これから関連するところなので、こういう形でまとめられていることは、すごく良いと思いました。
一方で、先ほどこれ、他の委員からもご指摘がありましたように、ここに書かれていることは教育ＤＸと言えないのではないかと思っています。例えば、単なるデジタル化ではなくて、カリキュラムとか学習

のあり方を革新すること、あるいは教育の組織を革新することが教育ＤＸと解釈していますので、そういう意味では、ここに書かれていることは表現として弱いのではないかと感じました。

それから２点目は、第２章２の②の急激な社会変化への対応というところで、少しバランスが気になるところがありました。例えば視点のところに主体的な学びという言葉があります。私が委員をやっている中央教育審議会の特別部会でも、主体的な学びは対話的な学びと対になっていて、それを「主体的・対話的で深い学びの一体的な充実」、或いは「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」ということを強調していまして、つまり、主体的な学びはすごく大事なことですが、それだけではなく、対話的であるとか協働的であるとか、ここの部分と両輪で考えられるのです。それであるのに、この記載だけ見ると、アンバランスに見えます。同じことが、その下に書かれている自己肯定感自己有用とか、これはとても大事なことです。専門家に怒られるかもしれませんが、この２つを入れるのであれば、自己調整力とか、情報活用力とか、これも両輪でやるということを強調していっていただきたいです。以上２点申し上げました。

【平田委員】

この基本計画全体を拝見して、まとまった素晴らしいものだと思います。個別にみれば、各委員からご指摘のあったような修正が必要だとは思いますけれども、全体の流れとしては大変まとまったものだと思います。

特に、基本目標で、インクルージョンを含んだウェルビーイングという考え方が盛り込まれて全体をまとめるというような形になっている。千葉県の周りには海もあり、都会もあり、郡部もありますので、ピンポイントで特徴が表現しにくいところが、千葉県だとも思います。本当にふるさと千葉を皆さんが実感できるような子供を育てていただきたいです。

また、先ほど子供たちが大きくなって東京に出ていってしまうという話がありました。当然、大学進学時に東京その他に出ていく。私立学校の立場から言わせていただくと、やはり本当に優秀な子供は中学の段階から、東京の学校に行ってしまいます。将来、千葉県をふるさとと感じて自分のふるさとのリーダーになりたいという子供が、中学の段階から東京に行ってしまう。そうなると彼らにとっては東京が故郷になってしまいます。その辺、この基本計画に盛り込むのは難しいと思いますけれども、やはり私立学校の振興を含めた方策というものも、土台として考えていただくことも必要なのではないかと考えております。私からは以上です。

【向野委員】

各委員も言われていますが、全体のバランスが非常にわかりやすくまとめられています。私の専門から言いますと、第３章の基本目標と目指す姿では、子供たちの自信を育む教育の土台づくり。質の高い学校教育の推進と、多様な教育ニーズへの対応を掲げています。その下の小さな項目の中で、様々な困難を有する子供たちが健やかに成長し、誰 1 人取り残されることない教育環境とあります。前回気がつけばよかったですが、誰１人取り残されない教育環境がやはり重要な部分だと思います。令和３年に出された令和の日本型学校教育の在り方の中でも記載があります。可能であれば、基本目標のところに、「多様な教育ニーズへの対応」、「誰１人取り残されない」といった文言も取り上げてアピールしていってほしい。すべての子をしっかりと受けとめるという姿勢を出していけると良いと思います。

前回申し上げました特別支援について、学習指導要領にそって再構成していただき、ありがとうございました。すべての子供を取り残さない、それぞれの子供たちをしっかり見ていくということを前面に出していってほしい。

それから、今回話題になっております職業系学科の定員割れについても、私が特別支援学校や専門学科の先生方と親しくさせていただいて思うのは、非常に良い教育をされているということです。しかし、生徒が集まらない。社会全体として、普通科高校が一番で、その下に専門学科があるように見られているという問題があるのではないか。専門学科で学ぶことの良さを打ち出していきたい。実施計画編の中で、伝えていただけるとありがたいと思います。魅力ある県立学校の表彰を毎年やっておりますけれども、各校頑張って応募しているわけですけど、予算がつかない。例えば、1校につき 100 万円あげるから、と募集すれば、真剣に考えて応募してくるのではないか。これは教育振興基本計画の中に盛り込むことではないのかもしれませんが、どこかで考えていかないと、魅力ある千葉の実現はなかなか難しいのではないかと考えます。以上でございます。

【小宮山委員】

今後、学生にも意見を聞く予定とのことですが、現在の教員養成系の大学の学生にとって魅力のある、ここ千葉県で働きたいかという点が重要ですので、委員の意見を参照して、案をさらにブラッシュアップしていただければと考えております。

その他、委員の先生方から質問や追加の意見がありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【岩本委員】

先ほどの職業系専門学科の話では、これからの教育予算だけでやろうとするのか、知事部局を含めて、千葉県の産業振興という捉えの中でそちら側のリソースも活用していくのか。

産業界自体が人手不足で困っているのであれば、産業界から人や物やお金をちゃんと出してもらいながら人を育て確保する。教育委員会の今までの予算の枠組みだけでやろうとすると当然限界がありますので、産業振興の観点で考えたら、これからは本当に人材育成・人材確保が重要になってきます。産業界とも、対話しながら連携協働して、一緒に出すものを出して、育てて、確保するところまでを見据えた形でやれれば、先を見たら安く上がると思います。教育予算からすると高くなるが、将来的な人材の確保と考えたら、出すべきところがもっと他にもあるのではないでしょうか。

専門学科の高校では、絶対取らなくてはならない科目は、義務教育に比べて少ないです。学校で独自に設定できる教科科目は、かなり自由につくれますので、学習指導要領があるからできないということは、ないと言ったら言い過ぎかもしれませんが、自由にできる範囲がものすごく広いというのが高校なので、産業界のリソースを含めて独自性のあるものを作っていくということは十分可能だと思います。さらに言えば、令和４年度の普通科の改革によって、いわゆる普通教育を主とする学科であっても、そこでやろうと思えば地域と連携した地域社会に関する学科だとか、ウェルビーイング科など、科の名前を変えていけるようになっている。全国的に新しい普通科も広がってきていますが、千葉県はまだ１つもそれをやっていません。そういうこともできる方向になってきているので、魅力ある学校づくりについて考えていってもいいのではないかと思います。以上です。

【小宮山委員】
貴重な意見ありがとうございます。１点目の予算の件で岩本委員から知事部局も含めて予算獲得しながら、一体的に取り組んでいけないか意見がありました。これについて、事務局から説明はありますか。

【教育政策課長】
様々な御意見ありがとうございました。産業界や地域と連携していく中で重要な視点だと思っております。今後はさらに研究をしながら、進めてまいります。

【教育長】
委員の先生方ありがとうございました。教育長冨塚でございます。
議論を拝聴しておりまして、確かに御指摘の通りだと考えます。特に教育ＤＸのところはおっしゃる通りだと思いました。記述、内容を含めまして再検討させていただきます。その上で、いただいた意見の中で特に皆様が触れてらっしゃった点について、現状についてお伝えします。
専門学科の志願者の低迷につきましては、県教育委員会としても非常に残念に思っておりまして、今やっている取組としましては、まず小中学生に専門学科を体験しようということで、専門学科の例えば工業科の生徒などが、地元の小中学校へ出向きまして、専門学科の学びを体験する事業、例えば工業学科の実験のようなもの体験させたりとか、ロボットを作ったものを操作させたりするなど、興味関心を持ってもらおうというような事業をやっております。
これらに加えまして、令和６年度は新たに高校の進路指導を行う中学の先生に専門学科のことを知ってもらおうと思い、中学の教員向けの研修という形で、専門学科の高校に中学の先生方においでいただいて、生の授業を実際に見ていただいています。また、専門学科で在学中に取得できる資格の紹介などをして、進路指導の際に普通科にいって学ぶよりも、工業科や商業科または農業科で、自分の可能性を広げることができる子供もたくさんいると思いますので、そういった子供たちに少し広い視野から、進路選択の道を紹介してもらえるような取組を企画しております。
それから高校の魅力発信ということでは、先ほども出ておりましたように、高校にこちらから予算を渡して、その予算の中で、自校の魅力を発信する事業を、自ら企画立案して、実現していくというような事業を始めております。
それから普通科については、岩本委員御指摘の通り、地域連携であるとか、学際領域に関するような、新たな国の方向性に沿ったところが千葉県はまだそこまで進んでいません。教員不足の点を踏まえまして、県立高校普通科の中に教員基礎コースを設けております。例えば、小中学校等の教員や、保育士を目指す生徒、関心がある生徒に、その普通科の生徒に、教育基礎コースの中では、実際にその地域の保育園ですとか、学校の中に入っていただいて、子供たちに触れる授業であるとか、千葉大学さんにもご協力いただいていますが、大学の教育学部の教授に高校への出前授業をやっていただいて、教育学部の学びについて関心を高める取組なども行っております。普通科がただ単に普通科の勉強をして、大学等への進学を目指すというだけではなく、普通科の学びの中でも、地域が必要とする人材の輩出につなげるような工夫をしているところでありまして、こういったところを国の方向性を踏まえた上で充実させていくことが必要だと感じたところです。

【小宮山委員】
令和の日本型教育ということで、様々なものが盛り込まれていて、ＡＩなどやらなければならないことが多くなってきています。教員養成側も追いついていないですし、学校に行ったら即戦力としてやらなくてはならないのかと教員を目指す学生たちが非常に不安に思っています。
中川委員にお聞きしたいのですが、今後に向けた教育改革が中央でも出てきているわけですが、この先本当に重要な事項についての議論はどうなっているのでしょうか。全てが必要となっているのでしょうか。

【中川委員】
これは、代わりに申し上げることはできないと思うのですが、１つはやはり能力に関することは議論に上がると思います。先ほど自己調整力とか、情報活用能力と申し上げました。例えば、情報活用能力にしても、別にＩＣＴを活用する場面だけではなく、相手にわかりやすく伝えるということも情報活用能力の大事な力ですから、そういうリテラシーをどうつけていくのかということが、議論としては出てきているという感じがします。
それから私は他の自治体とか、千葉県内の学校にも助言に入っています。先ほど言われたように、全部大事ですが、全てに労力をかけてやると、先生が倒れてしまうので、その学校の実態に応じて、ある学校では、情報活用を重点にやっていきましょうと、他のことも大事だけども、まずはこれというような軽重をつけてうまくやられているところが見受けられます。今後そういうことが大事になってくると個人的には思っています。以上です。

【小宮山委員】
先生になりたい学生も、現場の先生方も含めて、最初から全部できるというわけではなく、その学校・地域の特性などいろいろなものがまざって、だんだんと教員の質が上がっていき、自分自身も成長できるというものが、この計画の中で見えてくると、教員の志願者も増えてくるのではないかと考えました。

【芦澤委員】
先ほど岩本委員から大変興味深いご発言があったと思います。
産業界の立場から申し上げますと、なかなか県内の学校、高校、或いは中学校、そういったこれから産業界にすぐに就職で入ってくることではないですが、その３年後５年後に、就職を控えている中高生に対して、その千葉で働くと「こんな良いことがあるよ、こんな会社があるよ、こんな業界があるよ」といったところを見ていただくということはとても大事だと思います。これについては、産業界の皆様にもご賛同いただけると思います。しかし、「もし実行するならどうやってやるのか」「予算はどうするのか」など、産業界からどういう協力が得られるのかといったことが、教育界の皆様からすると不安に思うかもしれません。私は、会社があります習志野市の商工会議所の代表を務めております。商工会議所は、県内 21 の主な市にあります。あともう 1 つは、商工会というのが、県内 40 から 50 ございまして、要するに、ほぼすべての市町村に産業界の団体があります。またそれぞれが、県内の連合組織として、横の繋がりもありますので、産業界と中学高校の生徒の見学も地元の会社に受け入れてもらったり、企業から学

校に出向いて体験談を話してもらったりする取組が現在行われています。

私の会社もわずかではありますけれども、そういう事例があります。できれば全県的に、組織的に、また継続的にやっていくような動きになる余地があるかと思います。その点について、商工会議所、県内の連合組織に、私から提案することは十分可能だと思います。今回、私自身が教育界の皆様と関わることで、そこはお互い期待していると思います。大人の世界でのミスマッチがあるということがわかりましたので提案したいと思います。ちなみに商工会議所の県全体の代表は千葉銀行の経営者の方です。

もう１つは予算の話です。これだけ人手不足で悩んでいる企業がある中で、すべてではありませんけれども、県内の子供たちの教育のために、自らお金を出して、支援しても良いという会社が出てくると思います。

例えば、企業版のふるさと納税については、返礼品を期待するというわけではないですが、どこに消えてなくなるかわからない税金になるよりかは、「子供たちの教育のために」、そして「将来の県内の産業を担う人材の育成のために」という、目的を絞った形で寄付をする。県の教育委員会に対して寄付をするといったようなメニューを用意していただけるとすれば、呼応する企業は多いと思います。

また、千葉銀行の話になってしまいますけれども、こういった県内の産業また人材の未来について、考えるシンクタンク、千葉銀行のちばぎん総合研究所というシンクタンクがありまして、そこの代表の方と実は明日お会いする予定ですが、今日の議論のことをお伝えすれば、教育委員会とまた産業界を一緒になって考えていこうというテーマが設定されると思います。今後そういった橋渡し役というか、教育界の皆さんの困りごとを産業界が、人材、或いは金銭面で、サポートするといったことは可能な気がいたしました。

【教育政策課長】

企業版ふるさと納税ということで教育にご支援いただく取組をお伝えします。現在、千葉県教育委員会で、県立学校チャレンジ応援基金というものがありまして、各学校で、例えば子供たちの海外留学などをさせたいですとか、そのようなプランを考え、それを応援してくださる皆さんから寄附を募るという取り組みをやっております。

企業からも寄附を募っておりますので、御宣伝いただけたらと思います。魅力ある学校づくりにも直結する取り組みと思っております。各学校で創意工夫を凝らしたプランを考えておりまして、約 60 プランほど出しております。そういったプランに直接応援いただくことができるような仕組みを作っております。ぜひよろしくお願いいたします。

【小宮山委員】

先ほど岩本委員も言われたように、全体調整するようなコーディネーターがしっかりすれば全体が回り始めてうまくいくと思います。

高校生や若者が千葉から出ていく。出ていく理由はいろいろあるのでしょうが、出ていった人たちがいかに帰ってくるか、我々がどう呼び戻すのか。東京がブラックホールになって、どんどん吸い込まれて、誰も出てこない。やっぱり千葉県がいいねと思えるようになるには、小中高、全体の流れとしての教育がおそらく必要で、年齢が低い時の方が効果が高いので、そこについても盛り込んでいただければと思いました。

【池田委員】

私からは、皆さんから「千葉県らしさ」といった御発言があったので、千葉県らしさの観点から、質問とコメントをいたします。千葉県の１つの特色として、船橋・市川・松戸・柏など、いわゆる千葉都民といわれる方々が住んでいる地域と、農業地域、漁業地域の、大きく３つの地域に分かれていることが挙げられます。小学校、中学校で３つの地域が交流するような、例えば、いわゆる千葉都民の学校の子供たちが館山市などに行って環境教育を行う、あるいは逆に、農業地域の方々が東京都に近い地域でキャリア教育を行うとか、そのような特色ある３地域が相互に交流するイベントを実施しておられるでしょうか。

そのような３地域が交流するようなイベントとして、環境教育・情操教育・キャリア教育など推進することを通じて、千葉県の魅力がより伝わって、もしかしたら、必ずしも東京都で働くのではなくて千葉県で働いてみようとか、特色ある３つの要素を組み合わせた新たなビジネスを起こしてみようといった何らかのきっかけづくりができるのではないかと思いました。すでにもう取り組まれているかもしれませんが、質問も含めてコメントいたします。

【教育長】

ものすごく具体的な例で申し上げますが、私一宮町という外房の九十九里という大変風光明媚なところに住んでおります。東京オリンピックの際には、サーフィン競技の会場となりました。一宮町には、船橋市の青少年施設がございまして、自然学校のような形で船橋市内の小学生が夏の間にそこで学んでおります。その際には一宮町の自然を体験するだけではなくて、町内の小学校の子供たちとの交流も行われております。このような形での都市部と自然豊かな地域との交流というのは、おそらくいろいろなところで行われているものと思います。

また、高校生になりますと自分の住んでいる市とは違う隣の市に通う子供たちもいます。地域ごとに千葉県の場合は、農業科、あるいは水産系の学科など、多彩なものがあります。先ほど触れました県立高校の魅力発信の中では、普通科とそれから専門学科の生徒が、一緒に１つのテーマに沿って、探究的な学習をして発表するというような取り組みを始めております。その中で千葉女子高校という千葉市稲毛区にある学校の子供たちが、全く別の地域の成田の農業科の生徒たちと一緒になってメニューを開発する取組もやっております。小中学生段階、或いは高校生になっても、千葉という広い地域それぞれの持っている魅力を生かして、ふるさと千葉全体の魅力を若いときに知っていただくという取組を進めているところです。そういったところについても、もう少し深めていければと思いました。

【小宮山委員】

小学校と高校など異校種間での交流もあれば面白いと思いました。

【岩本委員】

私も池田委員の発想に非常に共感します。多様な地域を有している千葉県の強みを生かした越境、交流、留学という発想もあります。これもまだ千葉県の高校ではやっているところはないですが、国内の留学では、１年間他の高校に行けるようになっています。千葉県内でそういう形での行き来は小・中学校も高校も仕組みとしてはできることがありますので、留学的な発想を県が持っていると良いと感じました。

先ほど芦澤委員から企業版ふるさと納税の話がありました。私も企業等との連携は非常に大事な視点だと思います。例えば、企業版ふるさと納税も人材派遣型で人を出すこともできます。あと、兼業副業型みたいなものを制度としてやっているところもあります。そういった形で、学校や教育を支援する。企業から入っていき、企業側の負担を少なくするという利点もあります。私たちが携わっているとある自治体でも、各企業がお金を出し合って 2000 万円ぐらい毎年出して、それで高校生の様々なプロジェクト等を応援する。金銭面でも応援するし、社員がメンターで伴走役につくというような仕組みが企業の社員の人材育成にもなる。企業からお金を出してもらいながら育てるという仕掛けもやっていますので十分できると思います。先ほど教育政策課が言われた仕組みですが、各学校に寄附ができるようになっているという制度はすばらしいと思っています。各学校の教員が集めたり、ＰＲしたり、企業に出向いたりすることは現実的には難しいと思います。ウェブサイトに出すことができたとしても、全体調整だとかは難しいので、県でトータルコーディネートとか、リソースコーディネーターを配置して学校と産業界を繋いでいく。「学校任せにしたらうまく動かない」という発想での施策が必要だと考えます。

【小宮山委員】

今日の議論を振り返るとかなり細かいところまで盛りだくさんで、基本理念のところに書くのか、実施計画の施策ごとに書いていくのか、確認がそれぞれあると思います。その辺は宿題になりますけれども、事務方にお願いしてもう一度ブラッシュアップしていただく作業が必要だと思いますので、よろしくお願いいたします。

４　議題

（２）今後の予定について

【教育政策課長】

資料３をご覧ください。令和６年度の策定スケジュールについて説明いたします。

本日いただきました御意見を踏まえまして、骨子案として修正していく部分もありますし、計画の素案に文章として記載していく部分もあると思いますので、精査させていただき、今後、庁内で基本構想編と実施計画編骨子を含めた形で検討を進めてまいります。

６月下旬に、教員を目指す学生からのアンケートを行います。そして、７月下旬に第４回の有識者会議を行い、実施計画編骨子をお示ししますので、また改めて御意見いただきたいと思います。

そのあとに、教育振興基本計画の素案作成に向け、今後基本目標ごとに専門部会を設置しまして、その中でもまた御意見をいただきます。加えて、中学生・高校生との交流会を６回予定しておりますので、その際に今の子供たちからも意見を聞くという機会を持ちたいと思っております。

10 月上旬には第５回の有識者会議を開催して、ここで本計画の素案という形で御意見をいただきたいと思っております。素案が固まり次第、パブリックコメントを行って、広く県民の皆様からも御意見いただいた上で、年度内に計画を策定したいと思っております。スケジュールについては以上でございます。

【小宮山委員】

その他について、事務局は何かありますでしょうか。

【教育政策課長】

次回、第４回の有識者会議ですが、先ほど申し上げましたが実施計画編骨子をお示ししまして、御意見を伺いたいと思っております。７月の下旬の開催を予定しております。委員の皆様におかれましては、ご多用とは存じますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

【小宮山委員】

これですべての議事を終了いたしました。皆様、様々な御意見ありがとうございました。

それでは進行を事務局にお返しします。

【司会】

小宮山座長ありがとうございました。本日の内容につきましては、会議録を作成し、千葉県教育委員会のホームページで公表する予定です。内容につきましては、後日、御確認いただきますので、よろしくお願いいたします。

本日はご多用の中、ご出席いただき誠にありがとうございました。これをもちまして、第３回実施を終了いたします。ありがとうございました。